



小説で読む名古屋



2024年1月改訂

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
有松恋染めノスタルジー	藍生有	『有松恋染めノスタルジー』(KADOKAWA)	☆☆☆	有松が舞台で、登場人物の一人が有松絞の職人。桶狭間の交差点、有松・鳴海絞会館、藍染川が出てくる。主人公が鉄板ナポリタンを作る。
小説信長秀吉家康	愛知県文化財保存振興会	『小説信長秀吉家康』(泰文堂) 『信長・秀吉・家康 読物形式・史実考証』(泰文堂)	☆☆☆	史実にもとづいた小説。附録として古城址、年譜などがある。
空と風とパンと 名古屋物語	青井日出子	『空と風とパンと 名古屋物語』(青井日出子)	☆☆☆	主人公が、昭和35年に名古屋にやってきてからの物語。
銀盤のトレース	碧野圭	『銀盤のトレース』(実業之日本社)	☆☆☆	名古屋が舞台のフィギュア小説。
フルーツドロップ	あかねるつ	『フルーツドロップ』(新日本出版社)	☆☆☆	児童書。主人公は名古屋駅裏につづく街にある小学校に通う。
夢咲劇団ただいま参上	あかねるつ	『夢咲劇団ただいま参上』(講談社)	☆☆☆	児童書。主人公の家は上社。大衆劇団の名古屋公演に居候。
御松茸騒動	朝井まかて	『御松茸騒動』(徳間書店)	☆☆☆	主人公の尾張藩士が御松茸同心に任命され、植田御林や上野御林の松茸を管理する。八代藩主宗勝や隠居した七代藩主宗春が登場。
手放したものはなんなのだろう	朝井リョウ	『発注いただきました!』(集英社)	☆	通勤途中でふと思い出す、学生時代の光景。修学旅行に着ていく服を買うために、友達と大須まで行った。初めての地下鉄、初めての名古屋。友達の姿を見失わないよう、緊張感でいっぱいだった。あの頃より生活は便利になったけど、私は何を手に入れて、何を手放したのだろう。
武道館	朝井リョウ	『武道館』(文藝春秋)	☆☆	アイドルグループが名古屋で、ライブやイベントを行う。
五郎治殿御始末	浅田次郎	『五郎治殿御始末』(新潮社)	☆☆	桑名で居場所を失った元桑名藩士とその孫が、七里の渡しで熱田の宮の宿へ向かう。
和時計の館の殺人	芦辺拓	『和時計の館の殺人』(光文社)	☆	愛知県内で事件が起こる。登場人物の警部補が名古屋に詳しい。
学校のセンセイ	飛鳥井千砂	『学校のセンセイ』(ポプラ社)	☆☆☆	金山、名駅など。コメダらしき店も登場。
古き木に花ひらく時に	阿部知二	『未刊行著作集13阿部知二』(白地社)	☆	解説に「このN市はほぼ名古屋と推定して大過ない」とあり。
二人の天馬 電力王桃介と女優貞奴	安保邦彦	『二人の天馬 電力王桃介と女優貞奴』(花伝社)	☆☆	福沢桃介と川上貞奴の物語。旧川上貞奴邸(現・文化のみち二葉館)、川上絹布株式会社、覚王山日泰寺が出てくる。
サムライ・ダイアリー	天野純希	『サムライ・ダイアリー 鸚鵡筆中記異聞』(人間社)	☆☆☆	元禄の尾張名古屋が舞台。「鸚鵡筆中記」の著者朝日文左衛門重章が主人公。
B. A. D.	綾里けいし	『B. A. D.』(エンターブレイン)	☆	愛知県なご市。著者が名古屋出身。
秘め事	有川浩	『ラブコメ今昔』(角川書店)	☆	名古屋港(水族館、南極観測船ふじ)でデート
ファイターパイロットの君	有川浩	『クジラの彼』(角川書店)	☆	名古屋駅前のデパートで買物。
塩の街	有川浩	『塩の街』(角川書店)	☆	地名として名古屋が出てくる。
空の中	有川浩	『空の中』(角川書店)	☆	名古屋空港が閉鎖される。
沈淪	郁達夫	『現代中国文学全集第14巻』(河出書房) 『郁文達夫留東遺芳』(中日新聞社)	☆☆	N市が舞台。鶴舞公園、A神宮など

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
雲霧仁佐衛門	池波正太郎	『雲霧仁佐衛門』（新潮社） 『完本池波正太郎大成17』（講談社）	☆☆	尾張が舞台の捕り物帳
妖盗葵小僧	池波正太郎	『鬼平犯科帳 2』（文藝春秋）	☆	登場人物の一人が尾張の役者の息子。かつて、若宮八幡宮で芝居の一座が興行中、事件が起きた。
幼君暗殺事件	池端洋介	『幼君暗殺事件』（大和書房）	☆☆☆	尾張徳川家の豊奉行を主人公にした時代小説。「元禄豊奉行秘聞」シリーズ
火星に住むつもりかい？	伊坂幸太郎	『火星に住むつもりかい？』（光文社）	☆	過去に名古屋で危険人物が関係した事件があった。
尾張路殺人哀歌	石川真介	『尾張路殺人哀歌』（青樹社）	☆☆	主人公の夫が熱田の病院勤務。名古屋城、名城公園、名駅、栄などが出てくる。
不連続線	石川真介	『不連続線』（東京創元社） 『不連続線』（光文社）	☆☆☆	名古屋で事件が起こるミステリー。高須観音＝大須観音か？
震災列島	石黒耀	『震災列島』（講談社）	☆☆☆	東海地震発生
1ポンドの悲しみ	石田衣良	『1ポンドの悲しみ』（集英社）	☆☆☆	名古屋駅のホテルが舞台。名古屋駅の地下道、新幹線のホームが出てくる。
8番目のカフェテリアガール 東京なごやかプロジェクト	石原宙	『8番目のカフェテリアガール 東京なごやかプロジェクト』（集英社）	☆☆☆	舞台は東京の高校だが、名古屋ネタが満載。名古屋の有名喫茶店を解説するガイドもあり。
高野聖	泉鏡花	『泉鏡花集成4』（筑摩書房）	☆	冒頭、名古屋駅で鮎を買う。
紅雪録 紅雪録・続	泉鏡花	『鏡花全集第8』（岩波書店）	☆☆☆	雪で名古屋駅に足止めされた紳士の話
仲田の海	伊藤正人	『仲田の海』（大愛知なるへそ新聞社）	☆☆☆	主人公が、千種区の仲田にある祖母の家で夏休みを過ごす。広小路通の市電、オリエンタル中村、松坂屋、丸善が出てくる。
へたれ	絲山秋子	『ニート』（角川書店）	☆	主人公が名古屋駅できしめんを食べる。
逃亡くそたわけ	絲山秋子	『逃亡くそたわけ』（中央公論新社）	☆☆	主人公が名古屋出身。あだなが「なごやん」
まっとうな人生	絲山秋子	『まっとうな人生』（河出書房新社）	☆☆	『逃亡くそたわけ』の続編。富山で夫と娘と暮らしていた花ちゃんは、なごやんと再会する。なごやん一家との交流、コロナ禍の日々の中での不安と幸せを描く。なごやんが名古屋の映画シナリオのコンクールで賞をもらうエピソードがある。
赤ずきんの殺人 刑事・黒宮薫の捜査ファイル	井上ねこ	『赤ずきんの殺人 刑事・黒宮薫の捜査ファイル』（宝島社）	☆☆☆	名古屋市内各地で、童話の悪役を彷彿とさせる殺人事件が次々と発生。実力は折り紙付きだが性格に難のある黒宮警部補と部下の犬走巡査長が捜査にのりだす。
傾ける海	井上靖	『傾ける海』（文藝春秋）	☆	旅の途中で伊勢湾台風に遭遇した人たちの群像劇。中には近鉄名古屋線の復旧を牽引した人物もいる。伊勢湾台風襲来（1959年9月）直後、週刊文春1959（昭和34）年12月21日号～1960（昭和35）年7月18日号に連載。
クロククロック 1/6	入間人間	『クロククロック 1/6』（アスキー・メディアワークス）	☆☆☆	名古屋駅近辺が舞台。カルチャーセンター、デパート、駅構内のカフェなど。
彼女を好きになる12の方法	入間人間	『彼女を好きになる12の方法』（アスキー・メディアワークス）	☆☆☆	主人公の大学生が大須や名古屋駅でデートする。大学にある購買の店名から名城大学の学生だと思われる。
名古屋嫁入り物語	岩中祥史	『名古屋嫁入り物語』（河出書房新社）	☆☆☆	稲葉地町、東山動物園、車道の結納屋、名古屋駅の服部家具、大曾根の平安閣などが出てくる。名古屋弁や名古屋独自の事柄についての解説付。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
情愛の奸	上田秀人	『情愛の奸』（光文社）	☆☆	主人公が八代将軍吉宗の命で名古屋を訪れる。名古屋城、建中寺が出てくる。尾張藩の附家老成瀬隼人正幸が登場。
ドレスと留袖	歌野晶午	『ずっとあなたが好きでした』（文藝春秋）	☆☆	アパレルメーカーの名古屋支社に単身赴任中。職場の部下はドラゴンズファン。
葉桜の季節に君を想うということ	歌野晶午	『葉桜の季節に君を想うということ』（文藝春秋）	☆	名古屋に人を探しに来る。中央卸売市場、柳橋中央市場、守山区市場、西区市場木町などが出てくる。
平家伝説殺人事件	内田康夫	『平家伝説殺人事件』（角川書店） 『平家伝説殺人事件』（広済堂出版） 『平家伝説殺人事件』（飛天出版）	☆	名古屋で調査。愛知県警、市立図書館、地元新聞社などで調べようとする。
風のなかの桜香	内田康夫	風のなかの桜香（徳間書店）	☆☆	千種区の愛知専門尼僧堂など。
不等辺三角形	内田康夫	『不等辺三角形』（講談社）	☆☆☆	名古屋と宮城県東松島市が舞台。
ペラがえる	うどんあこ	『ペラがえる』（佼成出版社）	☆☆	絵本。名古屋弁を話すカエル。
思ひ川	宇野浩二	『宇野浩二全集第8巻』（中央公論社） 『日本文学全集30』（集英社）	☆	東京から名古屋へ旅行する。
如露	宇野浩二	『現代日本文学大系第46』（筑摩書房）	☆☆	宇野浩二『宇野浩二全集8巻』の短編「思ひ川」とリンクしている
暑中休暇の日記	宇野浩二	『宇野浩二全集第9巻』（中央公論社）	☆☆☆	広小路が舞台の童話
風変りな一族	宇野浩二	『宇野浩二全集第7巻』（中央公論社）	☆☆☆	広小路のカフェ・パリウスタが舞台。
光圀伝	冲方丁	『光圀伝』（角川書店）	☆☆	初代尾張藩主・徳川義直、二代目・光友が登場。
勝利投手	梅田香子	『勝利投手』（河出書房新社）	☆☆	中日ドラゴンズにスカウトされた甲子園エースの活躍
熱田狐	梅本育子	『花菖蒲』（光風社出版）	☆☆	熱田、堀川、庄内川が出てくる時代小説。
ペーパーシティを焼く	海野弘	『リヨンの夜』（河出書房新社）	☆☆☆	市庁舎、名駅コンコース、旧中村図書館などが出てくる。
野心と軽蔑	江上剛	『野心と軽蔑』（PHP研究所）	☆☆	中部電力の礎を築き、電力王とよばれるまでになった実業家、福澤桃介の人生を描いた小説。やり手の桃介も名古屋ではなかなか苦労した様子。川上貞奴とのやり取りも。
猟奇の果	江戸川乱歩	『江戸川乱歩推理文庫9』（講談社）	☆	鶴舞公園で意外な人物に再会。
石榴	江戸川乱歩	『江戸川乱歩推理文庫16』（講談社）	☆☆☆	名古屋市内目抜き通りのT町で殺人事件が起きる。
幽鬼の塔	江戸川乱歩	『幽鬼の塔・恐怖王』（春陽堂書店） 『少年探偵 江戸川乱歩全集43』（ポプラ社）（児童書）	☆☆☆	事件の背景を調べに名古屋へ。市立図書館で新聞を調べる。
シャドウゲーム	大沢在昌	『シャドウゲーム』（徳間書店）	☆☆☆	名古屋を舞台にしたサスペンス。名古屋駅、栄など。
電力こそ国の命 松永安左工門伝	大下英治	『電力こそ国の命 松永安左工門伝』（日本電気協会新聞部）	☆☆	「電力の鬼」と呼ばれた松永安左工門の一代記。名古屋電燈の合併をはじめ、名古屋での電力事業経営に関わる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
ツタよ、ツタ	大島真寿美	『ツタよ、ツタ』（小学館）	☆	主人公が人生の大半を過ごした地が名古屋。一人目の夫と暮らしていたときは、「この頃にはまだ珍しかった動物園や図書館などを擁する大きな公園」（鶴舞公園のことか）のそばで喫茶店を経営する。
甘栗と金貨とエルム	太田忠司	『甘栗と金貨とエルム』（角川書店）	☆☆☆	名駅前にある探偵社の高校生探偵の活躍。
甘栗と戦車とシロノワール	太田忠司	『甘栗と戦車とシロノワール』（角川書店）	☆☆☆	『甘栗と金貨とエルム』の続編。
暗闇への祈り	太田忠司	『暗闇への祈り』（角川春樹事務所）	☆☆☆	主人公の事務所が名古屋駅にある。「探偵藤森涼子の事件簿」シリーズ
遊戯の終わり	太田忠司	『遊戯（ゲーム）の終わり』（実業之日本社）	☆☆☆	「探偵藤森涼子の事件簿」シリーズ
名古屋駅西喫茶ユトリロ	太田忠司	『名古屋駅西喫茶ユトリロ』（角川春樹事務所）	☆☆☆	主人公が、名古屋駅西にある喫茶ユトリロ店主の孫で、名古屋大学医学部に通っている。医学部キャンパス、栄セントラルパーク、栄地下街、中村公園近くの食堂、熱田区旗屋町、伏見のおでん屋などが出てくる。鶴舞中央図書館にあるスガキヤが名前だけ出てくる。
マサが辞めたら	太田忠司	『ナゴヤドームで待ちあわせ』（ポプラ社）	☆☆☆	主人公が中日ドラゴンズの山本昌投手を目標にしている。鶴舞公園近くの居酒屋が出てくる。
ミステリなふたり	太田忠司	『ミステリなふたり』（幻冬舎）	☆☆☆	愛知県警捜査一課の刑事京堂景子とその夫が、名古屋市内で発生した事件の解決に挑む。続編もあり。
歪んだ素描	太田忠司	『歪んだ素描』（角川書店）（角川春樹事務所）	☆☆☆	「探偵藤森涼子の事件簿」シリーズ。
倫敦時計の謎	太田忠司	『倫敦時計の謎』（祥伝社）	☆☆☆	栄セントラルパーク、ロンドン時計除幕式での殺人事件
ミート・ザ・ジャンパーズ!	太田忠司	『ミート・ザ・ジャンパーズ!』（光文社）	☆☆☆	全編にわたって名古屋が舞台。熱田神宮、コメダなど、なじみのスポットが登場する一方、新聞「名古屋新報」、栄のライブハウス「DIME」など架空の設定も織り交ぜてあり面白い。
名古屋ベネチアングラス殺人事件	大谷羊太郎	『名古屋ベネチアングラス殺人事件』（有楽出版社）	☆☆	名古屋港にあったイタリア村の記述あり。
雪ん子	大塚雅裕	『雪ん子』（近代文芸社）	☆☆☆	主人公は名古屋の小学生。上前津駅、久屋大通公園、松坂屋、クリスタル広場、テレビ塔、中日ビル屋上の回転レストランが出てくる。
遙かに届くきみの聲	大橋崇行	『遙かに届くきみの聲』（双葉社）	☆☆	主人公たち朗読部のメンバーが名古屋に遊びに来て、台湾ラーメン屋やかき氷を食べる。名古屋のかき氷は東京のより氷が細かく溶けやすいらしい（本当かな?）。朗読コンクールの会場としても名古屋が登場する。
15歳の志願兵 ジュニア版NHKスペシャル	大森寿美男	『15歳の志願兵 ジュニア版NHKスペシャル』（汐文社）	☆☆☆	児童書。『積乱雲の彼方に 愛知一中予科練総決起事件の記録』をもとに作られたテレビドラマのノベライズ。昭和18年7月に実際にあったできごと。
醜聞の報酬	大藪春彦	『東名高速に死す』（光文社）	☆	主人公が一瞬だけ名古屋に立ち寄り、鶏スキを食べる場面がある。
凶銃の軌跡	大藪春彦	『東名高速に死す』（光文社）	☆☆☆	密造拳銃の出所を探るため、主人公が名古屋に来る。栄町や今池などを舞台に、地元ヤクザとの攻防を繰り広げる。
東海道五十三次	岡本かの子	『岡本かの子全集 第四巻』（冬樹社）	☆☆	主人公の夫が博物館の仕事を頼まれ、一緒に名古屋に行く。Nホテルに宿泊する。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
アースガード ローカル惑星防衛記	小川一水	『アースガード ローカル惑星防衛記』（朝日ソノラマ）	☆☆☆	宇宙人が名古屋に攻めてくる。東山動物園・東山公園のスカイタワー・ボート・北区のマンション・ナゴヤドームが出てくる。
あまねく神竜住まう国	荻原規子	『あまねく神竜住まう国』（徳間書店）	☆	頼朝の伴・嘉丙は熱田神宮に仕える者。熱田神宮宮司の藤原祐範が用意したという設定になっている。
里帰り	奥田英朗	『我が家の問題』（集英社）	☆☆	東京在住。札幌と名古屋へ里帰り
正雄の秋	奥田英朗	『我が家のヒミツ』（集英社）	☆	松山から江南へ移動する途中、名古屋駅でひつまぶしを食べる。
名古屋オリンピック	奥田英朗	『東京物語』（集英社）	☆☆	主人公は名古屋出身。
葵の残葉	奥山景布子	『葵の残葉』（文藝春秋）	☆☆☆	尾張徳川家当主・徳川慶勝と彼の3人の弟が幕末の動乱を生き抜く姿を描く。作中、慶勝が名古屋城を写真撮影する場面や、城下で「ええじゃないか」が流行する様子などが出てくる。
びいどろの火	奥山景布子	『びいどろの火』（文芸春秋）	☆☆☆	尾張藩主が徳川宗春であったころの名古屋が舞台。幕府とは反対に、規制緩和政策がとられた名古屋のにぎやかな様子が描かれる。
尾崎久弥小説集	尾崎久弥	『尾崎久弥小説集』（愛知県郷土資料刊行会）	☆☆☆	名古屋が舞台の短編小説集。
中村遊郭	尾崎士郎	『中村遊郭』（文藝春秋新社）	☆	関ヶ原付近に旅行に行く。帰りに熱田を通り、中村遊郭に行く。
空とラッパと小倉トースト	オザワ部長	『空とラッパと小倉トースト』（Gakken）	☆☆☆	福岡から名古屋に来た少女・美森は、桜の下でトランペットを吹く天才少年・安曇と出会い、名門・愛知名晋高等学校吹奏楽部に入部を決めた。そこで美森は思いもしない運命に導かれていく。
雪野	尾辻克彦	『雪野』（文芸春秋）	☆	大曾根、鶴舞公園などが出てくる。
淑女夜河を渡る	小野稔	『淑女夜河を渡る』（東京文芸社）	☆☆☆	広小路が舞台
書庫	小野稔	『作家 1950年7月号』（作家社）	☆☆☆	主人公は（市立名古屋図書館をモデルとしていると思われる）N市の図書館に勤務している。3年にわたる書庫での生活と、戦後の話が描かれている。
名古屋恋愛物語	海越出版社編集部	『名古屋恋愛物語』（海越出版社）	☆☆☆	東山動物園、名古屋駅、納屋橋などが出てくる。短編恋愛小説集。
吉宗と宗春	海音寺潮五郎	『吉宗と宗春』（文芸春秋）	☆☆☆	徳川吉宗と徳川宗春の対立が描かれている。
君たちに明日はない	垣根涼介	『君たちに明日はない』（新潮社）	☆	主人公が名古屋に2週間出張。名古屋駅ロータリー、オアシス21、栄サーブ像などが出てくる。自動車メーカーはトヨタ。
徳川宗春尾張宰相の深謀	加来耕三	『徳川宗春尾張宰相の深謀』（毎日新聞社）	☆☆☆	尾張藩第七代藩主。
八日目の蝉	角田光代	『八日目の蝉』（中央公論新社）	☆	逃亡中の主人公が名古屋に滞在する。
いつかの一步	角田光代	『平凡』（新潮社）	☆	主人公が、中学生のころ通っていた塾や野球場を見るために名古屋に行く。
名古屋わらべうた幽霊殺人事件	風見潤	『名古屋わらべうた幽霊殺人事件』（講談社）	☆☆☆	テレビ塔、大須のいろいろ店、名駅マリオットアソシアホテル、名古屋港、本山が出てくる。「京都探偵局」シリーズ。
群像、あるいはティーンエイジャーのためのハレルヤ	カズイスチカ	『はじめよう！がんの家族教室』（日本評論社）	☆☆☆	主人公が、愛知県がんセンター中央病院緩和ケアセンターで行われている勉強会に参加する。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
緑の島はるかに 台湾少年工物語	かつおきんや	『緑の島はるかに』（大日本図書）	☆☆☆	児童書。昭和19年、三菱重工大江工場（笠寺）に動員された少年たちの物語。名古屋城、大須、熱田なども登場。
あんた	加藤元	『嫁の遺言』（講談社）	☆	知り合いが名古屋の競馬場で倒れたため、主人公が名古屋の病院に行く。
ひかげ旅館へいらっしゃい	加藤元	『ひかげ旅館へいらっしゃい』（早川書房）	☆	家族旅行で、名古屋の東山動物園、スカイタワー、テレビ塔、名古屋城に行く。
尾張の宗春	亀井宏	『尾張の宗春』（東洋経済新報社）	☆☆☆	尾張藩第七代藩主。
明治美人館	川口松太郎	『明治美人館』（矢貴書店）	☆	納屋橋、堀川
役者 小説花柳章太郎	川口松太郎	『役者』（新潮社）	☆	戦争末期、御園座にて慰問公演。
路草	川崎長太郎	『川崎長太郎自選全集第1』（河出書房新社）	☆	有名な鯨のある城があるN市が舞台。M百貨店など登場。
屋上屋台しのぶ亭 秘密という名のスパイスを添えて	神風唐州	『屋上屋台しのぶ亭 秘密という名のスパイスを添えて』	☆☆	名古屋にある、一風変わった屋台の物語。台湾ミンチを豚肉で包んで揚げたトンカツや、あおさ海苔・干しエビ・天かすをご飯に混ぜて作った天むすもどきなど、名古屋めしをアレンジした料理が登場する。
大須裏路地おかまい帖 あやかし長屋は食べざかり	神風唐州	『大須裏路地おかまい帖 あやかし長屋は食べざかり』	☆☆☆	全編にわたって大須が舞台。おいしいような名古屋めしや、地元の人でもわからない?! ディープな名古屋弁も登場する。
名古屋四間道・古民家バル きっかけは屋根神様のご宣託でした	神風唐州	『名古屋四間道・古民家バル きっかけは屋根神様のご宣託でした』	☆☆☆	主人公は堀川に身投げしようとしていたところを屋根神様に助けられ、四間道にある古民家でお店を開くことになる。円頓寺商店街や明道町の菓子問屋など昔ながらの町並みの他、スガキヤが入っている公立図書館として、愛知県図書館や「鶴舞の方の図書館」もちらっと話題に上る。
仮そめ夫婦の猫さま喫茶店 なれそめは小倉トーストを添えて	岐川新	『仮そめ夫婦の猫さま喫茶店 なれそめは小倉トーストを添えて』	☆☆☆	仕事も住まいも失った真桜（まお）は、実家に連れ戻そうとする父親から逃れるため、駆け込んだ名駅近くの喫茶店のマスターと結婚したと言い追い帰す。とっさの嘘だったが、マスターから契約結婚を打診され、店を手伝うことに。
尾張の柳生家	岸宏子	『尾張の柳生家』	☆☆☆	柳生兵庫之介は祖父柳生石舟斎の掌中の玉であった。どこにも仕官せず、武者修行という名の気ままな浪人生活をしていたが、初代尾張藩主徳川義直の剣術指南役として尾張藩に迎えられる。
反骨	北原亞以子	『あこがれ ぎやまん物語 続』（文藝春秋）	☆☆☆	尾張藩七代藩主宗春の治世を描く。登場人物が間者として宗春の元に入りこむ。
太宰治の辞書	北村薫	『太宰治の辞書』	☆	主人公が思いを馳せる辞典の所蔵がある、という形で鶴舞中央図書館の名前が出てくる。
リケコイ。	喜多喜久	『リケコイ。』（集英社）	☆	主人公が東京の大学院を修了し、名古屋にある化学メーカーの研究所に就職する。新幹線で名古屋駅に到着するシーンがある。
極限トランク	木下半太	『極限トランク』（PHP研究所）	☆☆☆	主人公が、名古屋で事件に巻き込まれる。名古屋駅の超高層ホテル、吹上駅近くのエビフライの店、円頓寺商店街近くのバー、栄の居酒屋とクラブ、テレビ塔、ひつまぶしの店が出てくる。
巷説百物語 続	京極夏彦	『巷説百物語 続』（角川書店）	☆	第三章「飛縁魔」に、舞台のひとつとして名古屋の廻船問屋が出てくる。
奥さんの家出	国枝史郎	『国枝史郎探偵小説全集』（作品社）	☆☆	名古屋市内にある遊園地が舞台。
銀三十枚	国枝史郎	『国枝史郎伝奇全集巻6』（未知谷）	☆☆☆	鶴舞公園が出てくる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
暗い旅	倉橋由美子	『倉橋由美子全作品 第3』(新潮社)	☆	主人公が乗った列車が名古屋に一時停車する。名古屋は、「まだ一度もおりて歩いたことのない都市、あなたのイマージュのなかの乾燥した都市」と表現されている。
ちんじゅら風伝	桑原恭子	『ちんじゅら風伝』(風媒社)	☆☆☆	終戦直後の名古屋が舞台
月の炎 女流陶芸の先駆・月谷初子	桑原恭子	『月の炎 女流陶芸の先駆・月谷初子』(風媒社)	☆☆	陶芸家月谷初子の生涯を描く。東京出身で名古屋に移住、御器所や守山で陶器を制作。
運命の饗宴	小池亮	『運命の饗宴』(文芸社)	☆☆☆	名古屋市内のホテル、地下鉄名古屋駅、「富士ヶ丘」駅が出てくる。登場人物が、笹島から栄方面に向かって広小路通を歩き、戦後間もない頃の名古屋を語る。
ぞうれっしゃがやってきた	小出隆司	『ぞうれっしゃがやってきた』(岩崎書店)	☆☆☆	児童書。第二次大戦後、東山動植物園の実話。
風流魔	幸田露伴	『二日物語・風流魔』(岩波書店)	☆☆☆	大津町に住む装剣金工安堂信時の物語。
一人二役	河本準一	『一人二役』(ワニブックス)	☆	お笑いコンビ「次長課長」の自伝的小説。少年時代の舞台が桶狭間。
町が海におそわれた 伊勢湾台風物語	神山征二郎	『町が海におそわれた』(学習研究社)	☆☆☆	伊勢湾台風。
通夜の人々	小酒井不木	『小酒井不木探偵小説全集第1巻』(本の友社)	☆☆	鶴舞の探偵事務所。
疑問の黒枠	小酒井不木	『小酒井不木探偵小説全集第5巻』(本の友社)	☆☆☆	鶴舞公園周辺を舞台とした長編サスペンス。
好色破邪顕正	小酒井不木	『小酒井不木探偵小説全集第2巻』(本の友社)	☆☆☆	新栄町、丸田町など。
大雷雨夜の殺人	小酒井不木	『小酒井不木探偵小説全集第5巻』(本の友社) 『大雷雨夜の殺人』(春陽堂書店)	☆☆☆	大雷雨の名古屋で殺人事件が起きる。著者は名古屋を舞台にした探偵小説を多く書いている。
ふたりの犯人	小酒井不木	『小酒井不木探偵小説全集第3巻』(本の友社)	☆☆☆	名古屋鶴舞町に住む私立探偵が事件を調べる。
酩酊紳士	小酒井不木	『小酒井不木探偵小説全集第3巻』(本の友社)	☆☆☆	鶴舞公園前の駐在所。
名古屋	小島信夫	『各務原 名古屋 国立』(講談社)	☆☆	講演の会場が名古屋であり、名古屋に縁の深い人が登場し、名古屋弁への思い、名古屋の思い出なども語られる。
女流	小島信夫	『小島信夫全集第2』(講談社)	☆☆	前半の舞台は名古屋
紺屋海道・蔵の街殺人事件	木谷恭介	『紺屋海道・蔵の街殺人事件』(徳間書店)	☆	主人公が緑区桶狭間に住む人物を訪ねる。三重県へ行く途中で名港トリトン(名港東大橋、名港中央大橋、名港西大橋)を渡る。
名古屋殺人事件	木谷恭介	『名古屋殺人事件』(光風社出版) 『名古屋大通り公園殺人事件』(広済堂出版) 『名古屋大通り公園殺人事	☆☆☆	有松しほりの老舗が舞台。栄口サンゼルス広場、七里の渡し、中川区水里町、猫洞通などが出てくる。
確証	小谷剛	『確証』(改造社)	☆☆☆	上前津が出てくる。
100回目のお引っ越し	後藤みわこ	『100回目のお引っ越し』	☆☆☆	児童書。名古屋にある引っ越し社。会話、名古屋弁。
Hは人のためならず	後藤みわこ	『Hは人のためならず』(講談社)	☆☆	架空の名古屋の高校が舞台。Hは奉仕活動のこと。
尾張からくり京芝居	小橋博史	『尾張からくり京芝居』(東京新聞出版局)	☆☆☆	鉄砲町(現・栄)の紅葉屋重助が主人公。
大正琴一代 花の琴城	小橋博史	『大正琴一代 花の琴城』(中日新聞本社)	☆☆☆	大正琴琴城流宗家家元、鈴木精一(鈴木琴城)の物語。前半は熱田伝馬町が舞台。ほかに八事、大須門前町も出てくる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
花の大正琴	小橋博史	『花の大正琴』（東京新聞出版局）	☆☆☆	大正琴の発明者、森田吾郎の物語。森田五郎は大須の旅館の息子。大曾根も出てくる。
花の名古屋甚句	小橋博史	『花の名古屋甚句』（中日新聞本社）	☆☆☆	東海地方の埋もれた民謡を発掘し紹介した川崎瀧雄の物語。千種区豊年町、橋本町に住んでいた。公会堂、中日劇場、愛知文化講堂などが出てくる。
首都消失	小松左京	『首都消失』（徳間書店） 『首都消失』（角川春樹事務所）	☆	冒頭、名古屋駅で弁当を買う。
柳生連也斎	五味康祐	『柳生連也斎』（広済堂出版）	☆☆☆	ともに尾張藩士で剣の達人である柳生連也斎と鈴木綱四郎が、天白ヶ原で決闘する。
土器は我が胸にささやく小説・荒木実集成館物語	近藤雅英	『土器は我が胸にささやく小説・荒木実集成館物語』（羅針盤）	☆☆☆	名古屋の考古学研究者荒木実と彼が創立した荒木集成館の物語。
愛知県の秘密 緋色の殺人	斎藤栄	『愛知県の秘密 緋色の殺人』（中央公論社）	☆☆☆	工芸家が名古屋で事故死。現場に食べかけのういろうときしめんが・・・。
日美子・名古屋城の謎	斎藤栄	『日美子・名古屋城の謎』（光文社）	☆☆☆	名古屋で起こる殺人事件。名古屋城などが登場。
尾張ノ夏	佐伯泰英	『尾張ノ夏』（居眠り磐音江戸双紙シリーズ）（双葉社）	☆☆☆	安永八年（1779）夏、札の辻近くの長屋に滞在していた坂崎磐音は、尾州茶屋家でもめ事に遭遇。名古屋城、那古野神社、東照宮などが登場。
ウィメンズマラソン	坂井希久子	『ウィメンズマラソン』（角川春樹事務所）	☆☆	オリンピックを目指す主人公が、日本代表をかけて名古屋ウィメンズマラソンに出場する。ナゴヤドーム、桜通、久屋大通公園、名古屋市役所など、マラソンコースが描かれる。
明日も無宿の次男坊	笹沢佐保	『代表作時代小説昭和54年度第25巻』（東京文芸社）	☆	「木枯らし紋次郎」シリーズ
若き日の旅	里見淳	『若き日の旅』（養徳社） （甲鳥書林）	☆	冒頭、熱田神宮に行く。
いのちの蛍	沢田ふじ子	『いのちの蛍』（中央公論新社）	☆	元尾張藩士の営む居酒屋が舞台。
闇の森心中	潮山長三	『闇の森心中』（講談社）	☆☆☆	名古屋が舞台の江戸時代小説。
きよしこ	重松清	『きよしこ』（新潮社）	☆	社会見学でテレビ塔に行く。
銀色の絆	雫井脩介	『銀色の絆』（PHP研究所）	☆☆☆	母娘がある事情をきっかけに名古屋に引っ越し、フィギュアスケートに取り組む。大須のスケートリンクや日本ガイシアリーナで練習する。本山女学院、東山大学、尾張大学といった学校のほか、猫洞通、金山駅前の文化会館喫茶室、三の丸の病院が出てくる。
春の庭	柴崎友香	『春の庭』（文藝春秋）	☆	主人公と同じアパートに住む女性が子どもの頃に暮らしていた場所、および主人公の姉が現在暮らしている場所が名古屋。
黄昏の光と影	柴田哲孝	『黄昏の光と影』（光文社）	☆	捜査する中、登場人物の二人が北区大曾根に一時住んでいたことが分かり、刑事が北区役所に電話をかけ、現地や黒川駅近くの不動産会社を訪ねる。
眠狂四郎孤剣五十三次	柴田錬三郎	『眠狂四郎孤剣五十三次』（新潮社）	☆	東海道を西に向かい、各宿駅で待ち受ける刺客を倒していく。
胡蝶の夢	司馬遼太郎	『胡蝶の夢（四）』（新潮社）	☆	伊之助は大学を免職後、明治9年愛知県に招聘され、名古屋に移る。県立病院の医学教師になった後、明治10年名古屋の市中で開業。当時、書生として住みこんでいた後藤新平は愛知県立病院の下級医員だった。明治12年、名古屋を発つ。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
家	島崎藤村	『現代日本文学館10』(文芸春秋)	☆	登場人物のひとりが名古屋へ旅立つ。
夜は千の鈴を鳴らす 東京一名古屋駅90秒の謎	島田荘司	『夜は千の鈴を鳴らす 東京一名古屋駅90秒の謎』(光文社)	☆	名古屋駅が出てくる。
尾張春風伝 上・下	清水義範	『尾張春風伝』(幻冬舎)	☆☆☆	徳川宗春が主人公。
川のある街 伊勢湾台風物語	清水義範	『川のある街』(中日新聞社)	☆☆☆	西区が舞台の伊勢湾台風の話。
金鯱の夢	清水義範	『金鯱の夢』(集英社)	☆☆☆	名古屋弁時代小説。
蕎麦ときしめん	清水義範	『蕎麦ときしめん』(講談社)	☆☆☆	東京人から見た名古屋人論。「きしめんの逆襲」も収録。
やっとかめ探偵団	清水義範	『やっとかめ探偵団』(光文社)	☆☆☆	中川区で駄菓子屋を営むおばあちゃん探偵の活躍。「やっとかめ探偵団」シリーズ、ほかに3作あり。
指揮官たちの特攻	城山三郎	『指揮官たちの特攻』(新潮社)	☆	戦時中の名古屋にあった軍用機工場や空襲などの光景が書かれている。
鳩侍始末	城山三郎	『城山三郎全集10巻』(新潮社)	☆☆	尾張藩の鳩の世話係が主人公。
冬の派閥	城山三郎	『冬の派閥』(新潮社)	☆☆☆	徳川慶勝を指導者に仰いだ幕末の尾張藩の命運。
捕虜のいた駅	城山三郎	『捕虜のいた町 城山三郎に捧ぐ』(中日新聞社)	☆☆☆	太平洋戦争末期、有松に疎開していた少年の体験を描く。有松駅の近くにあった収容所の捕虜についての描写がある。作品の初出は、「小説中央公論」1961年夏季号。
金ヶ崎の四人	鈴木輝一郎	『金ヶ崎の四人』	☆	地名として、尾張熱田が出てくる。
ご立派すぎて	鈴木輝一郎	『ご立派すぎて』(講談社)	☆☆☆	名古屋が舞台のお見合い小説。
パワー系181	墨谷渉	『パワー系181』(集英社)	☆	あんかけスパ、名古屋コーチンが出てくる。登場人物が「名古屋の人」なので舞台と推測できる
アサッテの人	諏訪哲史	『アサッテの人』(講談社)	☆	N区浮沼の団地が舞台→西区の浮野町と中沼町をあわせた架空の地名か。
尾張名古屋の夜はふけて	瀬川貴次	『聖霊狩り 邪竜復活!?!』(集英社)	☆	おまけの短編が名古屋。繁華街で鶏の霊と対決。
場所	瀬戸内寂聴	『場所』(新潮社)	☆	名古屋駅ホームに降りる。自伝的小説。
太郎物語 大学編	曾野綾子	『太郎物語 大学編』(新潮社)	☆☆	名古屋の「北川大学」に入学。
名古屋1997	高井信	『名古屋1997』(徳間書店) 『名古屋の逆襲』(双葉社)	☆☆☆	1997年の鎖国政策を取る架空の名古屋に主人公がタイムスリップ。名古屋弁活用表つき。
飛水	高樹のぶ子	『飛水』(講談社)	☆☆	主人公が昔名古屋の短大に通っていた。登場人物の一人が東区大幸住宅に住む。名古屋の団体旅行客をのせたバスが飛騨川に転落する事故が起こる。
津波	高嶋哲夫	『津波』(集英社)	☆☆	東海・東南海・南海地震が同時発生。津波で大被害。
尾張葵風姿伝 徳川宗春	高橋和島	『尾張葵風姿伝 徳川宗春』(テレビ愛知)	☆☆☆	尾張藩第七代藩主。
白い手をした男	高見順	『高見順全集第八巻』(勁草書房)	☆☆	名古屋駅で妹を見送る。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
イタリアンスパゲッティの目覚め	拓末司	『恋の病は食前に』（朝日新聞出版）	☆	最後辺りに。昔名古屋に遊びに行ったとき食べた「イタリアンスパゲッティ」を再現して料理。
十四歳の遠距離恋愛	嶽本野ばら	『十四歳の遠距離恋愛』（集英社）	☆☆☆	2000年頃の名古屋が舞台、街（店など）の描写がとても細かい。大須、名駅、栄など
スーパーキックグランパス	田中館哲彦	『スーパーキックグランパス』（汐文社）	☆☆☆	児童書。名古屋グランパスエイトを心の支えにがんばるサッカー少年。
劇団42歳♂	田中兆子	『劇団42歳♂』（双葉社）	☆☆☆	学生時代の同級生で劇団を再結成し、愛知県芸術劇場小ホールで公演を行う。演劇練習館アクテノンや錦三丁目の居酒屋が出てくる。主人公が県庁に勤めている。
街でいちばんの探偵	司城志朗	『街でいちばんの探偵』（光文社）	☆☆☆	都市名は架空だが、プリンセス通り、錦三など名古屋を思わせる地名が出てくる。
維新に先駆けた絵師とつげん・いっけい	津木林洋	『維新に先駆けた絵師とつげん・いっけい』（森村記念館）	☆☆	江戸時代末期の画家田中訥言とその弟子宇喜多一蕙の物語。牧墨僊、山本梅逸、中林竹洞など尾張の画家との交流を描く。本町通りの料理屋、門前町の極楽寺などが出てくる。
急行エトロフ殺人事件	辻真先	『急行エトロフ殺人事件』（講談社）	☆☆	栄、石川橋、武平町など出てくる。
村でいちばんの首吊りの木	辻真先	『村でいちばんの首吊りの木』（中央公論社）	☆☆	上飯田のアパートで事件が起きる。
悪魔は天使である	辻真先	『悪魔は天使である』（東京創元社）	☆☆☆	通勤先が矢田町。
名古屋城が燃えた日	辻真先	『殺されてみませんか』（双葉社） 『名古屋ミステリ傑作選』（河出書房新社）	☆☆☆	名古屋空襲の日が起こった殺人事件の話。
深夜の博覧会 昭和12年の探偵小説	辻真先	『深夜の博覧会 昭和12年の探偵小説』（東京創元社）	☆☆☆	銀座で似顔絵かきをしている主人公は、挿絵を描くため、開催中の名古屋汎太平洋平和博覧会の取材に同行する。華やかな博覧会を楽しむ中、知人の巻き込まれた殺人事件の報がもたらされる。
平和な殺人者	辻真先	『平和な殺人者』（光文社）	☆☆☆	昭和25年の名古屋が舞台。
たかが殺人じゃないか 昭和24年の推理小説	辻真先	『たかが殺人じゃないか 昭和24年の推理小説』（東京創元社）	☆☆☆	ほぼ全編にわたって戦後まもないころの名古屋が舞台。まちの中を市電が走り、主人公の家は整備予定の100メートル道路のため立ち退きを要請されている。名古屋城をはじめ、各地で空襲の傷跡が残る。作中では、爆撃され廃墟と化した元軍事施設で殺人事件が起こる。
私のダイヤモンド	辻村深月	『家族シアター』（講談社）	☆☆	主人公一家は名古屋に住んでいる。「ダイヤモンド」は名古屋中心に愛知県限定で販売されている情報誌のこと（もちろん架空）。主人公は娘に愛知中央銀行、名古屋信金（これも架空）で働いてもらいたいと思っている。 など。
エスカルゴ兄弟	津原泰水	『エスカルゴ兄弟』（角川書店）	☆	手紙の文中で、登場人物が伊勢から名古屋に遠出したことを伝える箇所がある。パルコと映画館に行き、味噌煮込みうどんを食べて帰ったことが語られる。
ゴールドいろいろ	東郷隆	『ゴールドいろいろ』（講談社）	☆☆	主人公に敵対する悪の首領が、名古屋の和菓子屋の会長という設定。いろいろ、味噌おでんなど、名古屋グルメも登場。
二度泣いた少女	堂場瞬一	『二度泣いた少女』（講談社）	☆	主人公が名古屋に出張し、名古屋駅近くの会社の社長を訪ねる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
ラストダンス	堂場瞬一	『ラストダンス』（実業之日本社）	☆	プロ野球チーム〈スターズ〉の真田誠と樋口孝明。名古屋遠征では古式ゆかしい「名古屋スタジアム」でゲームをし、試合後、ホテルのルームサービスで味噌煮込みうどんを食べる。
倒れた花瓶	徳田秋声	『徳田秋声全集第15巻』（八木書店）	☆	解題により名古屋が舞台と思われる。
駄犬道中おかげ参り	土橋章宏	『駄犬道中おかげ参り』（小学館）	☆	江戸から伊勢へのおかげ参りの途中、宮宿（熱田）でぎしめんを食べる。登場人物の家族を宮宿近辺で探す。
二本の櫻	富川元文	『二本の櫻』（エフエー出版）	☆☆☆	全編にわたり名古屋やその周辺地域を舞台に話が進む。主人公の妻がボランティアをしている「点字図書館」は鶴舞中央図書館の中にある「点字文庫」のことだと思われる。
無念なり	富田源太郎	『無念なり 尾張の名君徳川宗春』（三九出版）	☆☆☆	尾張藩七代藩主宗春の生涯。
尾張名古屋異聞	豊田有恒	『異聞・ミッドウェー海戦タイムパトロール極秘ファイル』（角川書店）	☆☆☆	20世紀の経済学者が尾張藩七代藩主宗春の時代の名古屋にタイムスリップ。
電車で行こう！ [6] 超難解！？名古屋トレインラリー	豊田巧	『電車で行こう！ [6] 超難解！？名古屋トレインラリー』（集英社）	☆☆☆	児童書。電車が大好きな小学生が名古屋でトレインラリーに挑戦する。市営地下鉄、名鉄、あおなみ線などが登場。
ヴァーチャル・ライヴ10・8決戦	鳥飼否宇	『ナゴヤドームで待ちあわせ』（ポプラ社）	☆☆☆	平成6年（1994年）10月8日、ナゴヤ球場で行われた中日ドラゴンズ対巨人戦の再現小説。
有松の庄九郎	中川なをみ	『有松の庄九郎』（新日本出版社）	☆☆☆	児童書。有松絞を生んだ百姓たちの物語。
青春のアライ文具店	中沢天童	『青春のアライ文具店』（エフエー出版）	☆☆	名古屋駅や栄が登場する。
三の隣は五号室	長嶋有	『三の隣は五号室』（中央公論新社）	☆	登場人物の一人が、名古屋のゴム印を手がける文具メーカーの本社から単身赴任しており、名古屋弁を話す。
ウラン鉱の魔女	中園英助	『鮮血ラブコール』（光文社） 『名古屋ミステリー傑作選』（河出書房新社）	☆	名古屋グランドホテルから話が始まる。
おれたち戦国ロボサッカー部！	奈雅月ありす	『おれたち戦国ロボサッカー部！』（ポプラ社）	☆☆	児童書。織田信長を尊敬する中学生ノブナガが主人公。名駅中から岡崎中へ転校。大須や名駅近くの体育館に行く。
嗤う淑女	中山七里	『嗤う淑女』（実業之日本社）	☆☆	物語後半の舞台が名古屋。登場人物の一人が、昭和区八事本町在住。他に金城埠頭線、稲永駅、名古屋港、中川区高畑四丁目が出てくる。港署の署員が捜査にあたる。
おやすみラフマニノフ	中山七里	『おやすみラフマニノフ』（宝島社）	☆☆☆	愛知芸術劇場、栄、大須、枇杷島など。東海豪雨の避難先でヴァイオリン演奏。
さよならドビュッシー	中山七里	『さよならドビュッシー』（宝島社）	☆☆☆	主人公の自宅が、本山付近の高級住宅地。主人公が旭丘西高等学校に通う。チャリティーコンサートの会場として愛知県芸術劇場、ピアノコンクールの会場として伏見のしらかわホールが出てくる。
さよならドビュッシー前奏曲（プレリユード）要介護探偵の事件簿	中山七里	『さよならドビュッシー前奏曲（プレリユード） 要介護探偵の事件簿』（宝島社）	☆☆☆	主人公の自宅が、本山を過ぎた高台の高級住宅地にある。自宅から車で15分のリハビリセンター、栄のマンション、銀行、高針の車椅子製造販売会社などが出てくる。中警察署が事件の捜査にあたる。
女の銃、余命、路地からの脅迫状、パスポートの秘密	夏樹静子	『女の銃』（講談社）	☆☆☆	主に名古屋を舞台にした短編集。「パスポートの秘密」には、鶴舞中央図書館で新聞を調べるシーンがある。
閨閥	夏樹静子	『閨閥』（文藝春秋） 『名古屋ミステリー傑作選』（河出書房新社）	☆☆☆	名古屋に本社があり、全国的な食料品メーカーの課長が行方不明に

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
光る崖	夏樹静子	『光る崖』（光文社）	☆☆☆	主人公が名古屋地検の検事。名古屋市内で傷害致死事件が発生。栄の繁華街、女子大小路など市内が舞台。
三四郎	夏目漱石	『明治の文学第21巻』（筑摩書房） 『漱石全集第5巻』（岩波書店） 『三四郎』（新潮社）	☆	冒頭、名古屋で宿泊
堀川の主たちに会いたくて	七本薫	『堀川の主たちに会いたくて』（風塵社）	☆☆☆	堀川が舞台の、主婦の再生物語。
元禄なごや犯科帳	新家猷佑	『元禄なごや犯科帳』（柏艸舎）	☆☆☆	元禄時代の尾張が舞台
ねこのこ	仁木英之	『黄泉坂案内人』（角川書店）	☆☆	第二話「ねこのこ」に、守山区在住の家族が登場。守山のピール工場、覚王山の私立小学校が出てくる。
小説二葉御殿	西尾典祐	『小説二葉御殿』（樹林舎）	☆☆☆	名古屋市図書館について記述あり。川上貞奴、福沢桃介
漁港の肉子ちゃん	西加奈子	『漁港の肉子ちゃん』（幻冬舎）	☆	登場人物の一人が、かつて栄の Snackbar で働いていた。
愛と死の飯田線	西村京太郎	『十津川警部捜査行 東海特急殺しのダイヤ』（実業之日本社）	☆	名古屋で事件が起こる。
十津川警部幻想の信州上田	西村京太郎	『十津川警部幻想の信州上田』（講談社）	☆	名古屋で事件が起こり、十津川警部が中警察へ調査に行く。
十津川警部陰謀は時を超えて リニア新幹線と世界遺産	西村京太郎	『十津川警部陰謀は時を超えて リニア新幹線と世界遺産』（文藝春秋）	☆☆	登場人物が名古屋を訪れ、リニア・鉄道館を取材する。味噌煮込みうどんの店、藤が丘駅とリニモが登場する。
維新を動かした男 小説尾張藩主・徳川慶勝	野口勇	『維新を動かした男 小説尾張藩主・徳川慶勝』（PHP研究所）	☆☆☆	尾張藩第十四代藩主。名古屋藩藩主。青松葉事件。
霧の裁き	野村紀光古	『霧の裁き』（シングルカット）	☆☆☆	錦三を舞台にした恋物語。著者は錦三でクラブを経営。
錦三恋物語	野村紀光古	『錦三恋物語』（NKM出版）	☆☆☆	錦三を舞台にした短編集。著者は錦三でクラブを経営。
女子大小路の名探偵	秦建日子	『女子大小路の名探偵』（河出書房新社）	☆☆☆	行き当たりばったりの末女子大小路のバーでバイト店長を務める大夏は、連続女児殺害事件の容疑者とされてしまう。絶縁状態のおっかない美人の姉、美桜に助けを求めるが…。
御深井御庭	服田伊都子	『御深井御庭』（青松書院）	☆☆☆	尾張藩十代藩主斉朝に仕える御土居下同心が主人公。『金城温古録』の著者奥村得義が登場するほか、大惣や高力種信の名前も出てくる。
氷山のごとく	花登筐	『氷山のごとく 1～3』（東京新聞出版局）	☆☆☆	長者町の洋品雑貨商が舞台。1980年にドラマ化。
はしれNO6でんしゃ	浜野卓也	『はしれNO6でんしゃ』（佼成出版社）	☆☆☆	明治31年名古屋市電開通の話。
名古屋・今池界隈	林礼子	『名古屋今池界隈』（鳥影社）	☆☆☆	名古屋・今池
邪しき者	羽山信樹	『邪しき者』（新人物往来社）	☆☆☆	名古屋城下町が舞台の時代小説。
誰が殺したか	葉山嘉樹	『葉山嘉樹全集第1巻』（筑摩書房）	☆	主人公の家が名古屋市西部。
牢獄の半日	葉山嘉樹	『葉山嘉樹全集第1巻』（筑摩書房）	☆	名古屋刑務所が舞台。
地下水	葉山嘉樹	『葉山嘉樹全集第2巻』（筑摩書房）	☆☆☆	N市鶴見公園は鶴舞公園か？

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
踊れぬ天使	原宏一	『踊れぬ天使』（祥伝社）	☆	登場人物が交わす会話の中に「鶴舞公園」の読み方についての話が出てくる。
旅屋おかえり	原田マハ	『旅屋おかえり』（集英社）	☆	登場人物が東京から四国へ行く途中、名古屋に立ち寄る。
ひかりより速く、ゆるやかに	伴名練	『なめらかな世界と、その敵』（早川書房）	☆	主人公のクラスメイト達を乗せた新幹線が謎の「低速化」現象に見舞われ、そこだけ時間の流れが2600万分の1になってしまう。事件は未解決のまま、新横浜-名古屋間の路線は廃止され、名古屋駅には乗客に向けて状況を説明した巨大な碑が立てられる。理論上、彼らがそれを読むのは西暦4700年頃ということになるが…。
紀伊半島	東直子	『ゆずゆずり』（集英社）	☆	主人公が旅の途中の名古屋駅で、映画『カメラ』に出てきた二つの「高い塔のような建物」を眺め、怪獣に思いをはせる。
祈りの幕が下りる時	東野圭吾	『祈りの幕が下りる時』（講談社）	☆	登場人物が、名古屋駅で新幹線を乗り換える。刑事が名古屋へ捜査に行くが、名古屋での捜査そのものは描かれない。
トキオ	東野圭吾	『トキオ』（講談社）	☆	名鉄名古屋駅。神宮駅。
マスカレードホテル	東野圭吾	『マスカレードホテル』（集英社）	☆	事件の関係者の一人が名古屋出身で、劇団「やっと亀」に所属していた。刑事が妙音通の実家に捜査に行く。
ウインクで乾杯 長編本格推理小説	東野圭吾	『ウインクで乾杯 長編本格推理小説』（祥伝社）	☆☆	殺された女性や犯人候補の男性の出身地が名古屋。調べていくと、事件と名古屋との間にさらに深いつながりがあることが判明する。
駅裏レクイエム 45歳で旅出た姉に捧ぐ45の短編	平子純	『駅裏レクイエム 45歳で旅出た姉に捧ぐ45の短編』（平子純）	☆☆☆	主人公が名古屋駅西に住んでいる。時代は昭和20年代と思われる。名古屋駅や御園座が出てくる。
名古屋悪女物語	平子純	『名古屋悪女物語』（風媒社）	☆☆☆	名古屋駅裏に住むたくましい女性の話。
名古屋花心中	平子純	『名古屋花心中』（中日新聞社）	☆☆☆	中村区、熱田区、八事などが出てくる。
スガリさんの感想文はいつだって斜め上	平田駒	『スガリさんの感想文はいつだって斜め上』（河出書房新社）	☆☆☆	覚王山にある高校が舞台。揚輝荘、名古屋港ワイルドフラワーガーデンなど、名古屋の各地でちょっとした事件が起き、それを主人公たちが有名な文学作品の内容とからめて解決する。
スガリさんの感想文は絶え間ない嵐の中 4 『幽霊塔』編	平田駒	スガリさんの感想文は絶え間ない嵐の中 4 『幽霊塔』編（河出書房新社）	☆☆☆	覚王山にある高校の読書感想部で起こるミステリー。名古屋の「幽霊塔」とは？揚輝荘、城山八幡宮、昭和塾堂などを舞台に物語が展開する。
シレーヌと海老	広小路尚祈	『うちに帰ろう』（文芸春秋）	☆	名古屋の商店街の天ぷら屋の息子が主人公。
ドラゴンズ漫談	広小路尚祈	『ナゴヤドームで待ちあわせ』（ポプラ社）	☆☆☆	夢破れ、名古屋に戻ってきた主人公が、中日ドラゴンズの試合を見てある決意をする。ナゴヤドームが出てくる。
日曜日の乗務	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』（桜山社）	☆☆☆	中村区が舞台。名古屋駅、大鳥居、豊国神社などが出てくる。
山あり、谷あり、そして丘あり	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』（桜山社）	☆☆☆	千種区が舞台。JR千種駅、よし川ピレッシジなどが出てくる。
父子が如く	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』（桜山社）	☆☆☆	東区が舞台。主人公たちがナゴヤドームで野球の試合を観戦する。
ミッドナイト・ナポリタン	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』（桜山社）	☆☆☆	北区が舞台。黒川駅、レストラン喫茶かゝしなどが出てくる。
天然レトロ	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』（桜山社）	☆☆☆	西区が舞台。中央菓子卸市場、円頓寺商店街などが出てくる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
金の金曜日	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	中区が舞台。金山駅、テレビ塔などが出てくる。
いつか来る季節	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	昭和区が舞台。名古屋第二赤十字病院(八事日赤)、興正寺などが出てくる。
お達者で	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	瑞穂区が舞台。雁道商店街、賑町商店街、栄市場などが出てくる。
七五三ときよめ餅	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	熱田区が舞台。熱田神宮、きよめ餅、六番町の陸橋などが出てくる。
利家とまつ	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	中川区が舞台。中川運河、荒子駅、前田利家の像などが出てくる。中川図書館が一瞬だけ話題にのぼる。
水辺にて	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	港区が舞台。稲永公園、藤前干潟稲永ビクターセンター、野鳥観察館などが出てくる。
いい景色	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	南区が舞台。東港駅(名古屋臨海鉄道の貨物駅)、大同大学滝春キャンパスなどが出てくる。
オオモリーゼのために	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	守山区が舞台。ゆとりーとライン、名鉄瀬戸線小幡駅、金城学院大学などが出てくる。
桶狭間の戦い	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	緑区が舞台。有松・鳴海絞会館、桶狭間古戦場公園などが出てくる。
名東ジャングル	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	名東区が舞台。愛知カンツリー倶楽部、牧野ヶ池緑地など出てくる。
平針	広小路尚祈	『いつか来る季節 名古屋タクシー物語』(桜山社)	☆☆☆	天白区が舞台。愛知県運転免許試験場などが出てくる。
もうひとつの10・8	深水黎一郎	『ナゴヤドームで待ちあわせ』(ポプラ社)	☆☆☆	登場人物の一人が中日ドラゴンズファンで、ある方法を使って、ナゴヤ球場で行われた中日ドラゴンズ対巨人戦を再現する。
アトランティス名古屋に帰る	福井大記	『アトランティス名古屋に帰る』(エフエー出版)	☆☆	名古屋沖に新大陸出現。
知床一名古屋0殺人の罨	福田洋	『知床一名古屋0殺人の罨』(広済堂出版)	☆☆	事件の捜査で名古屋に行く。
クレヨン王国月のたまご	福永令三	『クレヨン王国月のたまご』(講談社)	☆	児童書。地底での危険な旅を続ける主人公が、竹やりを手に名古屋をめざす小学生の団に遭遇する。
クレヨン王国超特急24色ゆめ列車	福永令三	『クレヨン王国超特急24色ゆめ列車』(講談社)	☆	児童書。少年時代を名古屋で過ごした主人公が、名古屋空襲の記憶を回想する。
中部を翔る	藤沢茂弘	『中部を翔る』(中日新聞社)	☆☆☆	名古屋コーチン誕生、徳川慶勝の活躍など。近世近代愛知を舞台にした小説集。
尾張瀬戸殺人事件	碧春海	『尾張瀬戸殺人事件』(鳥影社)	☆☆	メインの舞台は瀬戸だが、大須観音も出てくる。
銀の電車に乗るまでに	堀田あけみ	『銀の電車に乗るまでに』(海越出版社) 『まほうの電車』(角川書店)	☆☆☆	地下鉄東山線名古屋～一社間の各駅が舞台。
1980アイコ十六歳	堀田あけみ	『1980アイコ十六歳』(河出書房新社)	☆☆	名古屋弁小説として名高い。著者が名古屋出身。
花くらべ	堀田あけみ	『花くらべ』(海越出版社)	☆☆☆	尾張名古屋、徳川宗春の時代
われも恋う	堀田あけみ	『われも恋う』(角川書店)	☆☆☆	主人公は名古屋の大学生。
空とぶこども共和国	本田忠勝	『空とぶこども共和国』(愛知書房)	☆☆	児童書。敗戦直後の名古屋の子どもを描く
武士道シックスティーン	誉田哲也	『武士道シックスティーン』(文藝春秋)	☆	女子高生、剣道の全国大会が名古屋で行われる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
七帝柔道記	増田俊也	『七帝柔道記』（角川書店）	☆	主人公が旭丘高校出身。北海道大学に進学し、名古屋大学の柔道部と対戦。
今池電波聖ゴミマリア	町井登志夫	『今池電波聖ゴミマリア』（角川春樹事務所）	☆	今池が舞台のSF小説。
被疑者04の神託	松岡圭祐	『被疑者04の神託』（角川書店）	☆	愛知県生稲市が舞台。生稲は架空の地名だけど、名古屋近郊の町のように、登場人物が南山大学に通っている。
黄色い風土	松本清張	『黄色い風土』	☆	週刊誌の記者、若宮四郎は東京駅で奇妙な新婚夫婦を見かける。偶然熱海で同じホテルだったが、夫の方は海辺で死体となった。不審に思った若宮はひそかに事件を追い始め、やがて名古屋のうら寂れた旅館を拠点に、ある組織が動いていることをつきとめる。昭和34年から翌年にかけて中部日本新聞他で連載された。
喪失の儀礼	松本清張	『松本清張全集23』（文藝春秋）	☆☆	名古屋で内科医の学会が開催され、参加者の一人が殺される。中署が捜査にあたる。名古屋市内のホテル、M町通りにある喫茶店とR洋品店が出てくる。
花電車の街で	麻宮ゆり子	『花電車の街で』（双葉社） 『碧と花電車の街』（双葉社）	☆☆☆	昭和30年代の大須。母と二人で暮らす碧（みどり）の夢は映画監督になること。地元大須の映画館に足繁く通い、「ローマの休日」やフェリーニの「道」に心躍らせる。戦後のにおいが残る街の様々な人間模様と、少女の成長の物語。
EXPO' 87	眉村卓	『EXPO' 87』（角川書店）	☆	日本東海道万国博覧会「EXPO' 87」が安城で開催される。会場へ行くため名古屋を経由する。
神去なあなあ夜話	三浦しをん	『神去なあなあ夜話』（徳間書店）	☆	主人公が名古屋駅のデパートにクリスマスプレゼントを買いに行く。
ピブリア古書堂の事件手帖 4	三上延	『ピブリア古書堂の事件手帖4』（アスキー・メディアワークス）	☆	江戸川乱歩が、名古屋の大須ホテルで「押し絵と旅する男」の原稿を破棄したエピソードが出てくる。
漂い果てつ 小栗重吉漂流譚	三田村博史	『漂い果てつ 小栗重吉漂流譚』（風媒社）	☆	尾張藩の船頭小栗重吉が熱田から出港後、難破し漂流する。
希望荘	宮部みゆき	『希望荘』（小学館）	☆	主人公が調査のため、名古屋に行き人と会う。市内にある大手デパートの宝飾店が出てくる。
夢の中間に	三輪秀彦	『夢の中間（ちゅうげん）に』（集英社）	☆☆☆	時代は市電の走る頃。N市、N駅、N城、鶴池公園の公会堂。N市の夏は暑い…。
松平長七郎旅日記	村上元三	『松平長七郎旅日記 東海・西海編』（光文社） 『松平長七郎旅日記』（東京文芸社）	☆	東海道を旅していて、名古屋も通る。
尾張様の長煙管	村上元三	『浜田騒動』（光文社）	☆☆☆	主人公は、尾張七代藩主宗春に引き立てられた足軽。舞台の多くが熱田神宮や名古屋城下などであり、宗春や老中等も出てくる。
色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年	村上春樹	『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（文芸春秋）	☆☆	名古屋出身の主人公が東京の大学に進学する。東京と名古屋が舞台。
東の果つるところ	森絵都	『東と西 1』（小学館）	☆	「月とエビフライ」という映画のロケを名古屋で行っている。
初恋	森田草平	『明治大正文学全集第29巻』（春陽堂）	☆☆	中村遊郭、笹島などが出てくる。
数奇にして模型	森博嗣	『数奇にして模型』（講談社）	☆☆☆	鶴舞公園周辺が舞台。
遊女のあと	諸田玲子	『遊女（ゆめ）のあと』（新潮社）	☆☆☆	尾張名古屋を舞台にした時代小説。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
名古屋殺人事件	矢島誠	『名古屋殺人事件』（栄光出版）	☆☆☆	名古屋城で変死体が発見される。事件の裏側には伊勢湾台風が関わっている。
徳川宗春 大いなる尾張の挑戦	矢頭純	『徳川宗春』（海越出版社）	☆☆☆	尾張藩第七代藩主。
オフェリアは誰も殺さない	山村正夫	『本州縦断殺人旅行』（双葉社）	☆☆☆	同窓会の会場が名古屋。
夢曳船	山本一力	『夢曳船』（徳間書店）	☆☆	登場人物が、木材取引のため熱田宿、熱田湊へ行く。
曾我平九郎	山本周五郎	『人情武士道』（新潮社）	☆☆	主人公は織田信長の家臣。鳴海城主の謀者を討ち取ったり、桶狭間の戦いでも活躍する。
恋せども愛せども	唯川恵	『恋せども愛せども』（新潮社）	☆☆	主人公姉妹の姉が名古屋在住。名鉄セブン前ナナちゃん人形で待ち合わせ。
鬼火	横溝正史	『横溝正史ミステリ短篇コレクション 2』	☆	いところでライバルでもある万造と代助。二人は一時期中央画壇でも知られた画家だった。しかし代助は万造の策略で警察につかまってしまう。その間万造は、名古屋駅付近で起きた列車転覆事故に巻き込まれ、全身に大けがを負う。一方代助は衰弱して病院にいたが脱走、万造の前に突然現れる。再会した二人の間で起こったことは…。
冷やし中華にマヨネーズ	吉川トリコ	『この部屋で君と』（新潮社）	☆	主人公の彼氏が名古屋出身。
オリーブ	吉川トリコ	『オリーブ』（メディアファクトリー）	☆☆☆	名古屋中心街にほど近い古ぼけた猫ノ池商店街、喫茶オリーブが舞台。久屋公園、星山書店、ハーブスのメロンケーキなどが出てくる。
グッモーエビアン	吉川トリコ	『グッモーエビアン』（新潮社）	☆☆☆	スガキヤ、コメ兵など出てくる。
流れる星をつかまえに	吉川トリコ	『流れる星をつかまえに』（ポプラ社）	☆☆☆	ドラゴンズ応援のチアグループを結成した主婦、部活に燃える生徒とひっぱられる先生…。名古屋を舞台に日常を生きながら、少しずつ前に進んでいく主人公たち。登場人物は重なりながらも主人公をスライドさせ、親の目線、子の目線あるいは姉妹の目線で日常を描いた短編集。鶴舞公園もちらりと登場。
ぶらりぶらこの恋	吉川トリコ	『ぶらりぶらこの恋』（幻冬舎）	☆☆☆	主人公が名古屋市内でピアノを教えている。会話は全編名古屋弁。女子大小路のピアノバー、名古屋城、名古屋城近くのホテルなどが出てくる。
ママはダンシング・クイーン	吉川トリコ	『ナゴヤドームで待ちあわせ』（ポプラ社）	☆☆☆	主人公がナゴヤドームで行われる中日ドラゴンズのママチア（チアダンス）に参加する。鶴舞公園、吹上の交差点、飯田街道、庄内川の堤防などが出てくる。
不正な処理	吉原清隆	『不正な処理』（集英社）	☆☆	主人公が大須、愛知県図書館、鶴舞中央図書館に行く。
零式戦闘機	吉村昭	『零式戦闘機』	☆☆	名古屋航空機製作所。
真実の10メートル手前	米澤穂信	『真実の10メートル手前』（東京創元社）	☆	主人公が名古屋駅で電車に乗る。金山のマンションが出てくる。
紐育チーズケーキの謎	米澤穂信	『巴里マカロンの謎』（東京創元社）	☆☆☆	主人公が名古屋市千種区の学校の学園祭に出かけ、そこで事件が起こる。
巴里マカロンの謎	米澤穂信	『巴里マカロンの謎』（東京創元社）	☆☆☆	主人公が名古屋駅近くのマカロン専門店に行く。
花府シュークリーム	米澤穂信	『巴里マカロンの謎』（東京創元社）	☆☆☆	主人公は友人を助けるために奔走する。友人は覚王山在住で千種区の学校に通っているため、名古屋駅地下街の喫茶店、千種区の学校、名古屋駅の駅ビルの書店、覚王山駅なども舞台になる。

作品名	著者	掲載されている資料	名古屋度	コメント
名古屋駅の大時計の下	米本義徳	『名古屋駅の大時計の下』 (ろっぽう出版社)	☆☆☆	主人公が国鉄の職員で名古屋駅に勤める。 元熱田図書館長の解説あり。
秘花	連城三紀彦	『秘花』 (新潮社) 『秘花』 (東京新聞出版局)	☆☆☆	中村遊郭が第二部の舞台。著者が名古屋出身。
残酷な高原の朝	和久俊三	『呪いの紙草履』 (角川書店) 『呪いの紙草履』 (光文社)	☆☆☆	赤かぶ検事は名古屋出身で名古屋弁。「赤かぶ検事」シリーズの他の話でも名古屋の思い出を語っていることがある。
ショートストーリー名古屋		『ショートストーリー名古屋』 (ショートストーリー名古屋実行委員会)	☆☆☆	名古屋を舞台としたショートストーリーコンテストに選ばれた作品を収録。
中学生日記		『中学生日記』 (日本放送出版協会) 『ポプラ社版NHK中学生日記』 (ポプラ社)	☆☆☆	ご当地文学。